

1) $L > 0$ の場合。

2次元の実験で装置並びに理論的考察は著者の土木学会誌37-7, 土木学会論文集38号に発表した通りである。特に本実験においては次の表のように広い範囲の3つの砂礫群を使用した。 L : ノズルと初期移動床面との距離, v_0 : ノズルよりの流出速度, V_0 : ノズルの幅2, 1, 0.5 mm, σ : 砂礫の平均径に相当する砂粒の限界沈降速度で Krey の丸味と云った砂粒についての公式より誘導, S : 初期移動床面からの洗掘深。

相模川産砂礫					
フルイ 記号	0.6~1.2 mm	1.2~1.7 mm	1.7~2.5 mm	2.5~5.0 mm	5.0~70 mm
A	50%	10%	10%	30%	—
B	27.27%	22.73%	10%	40%	—
C	—	14.23%	30.79%	20%	30%

測定方法は1mm 間隔の目盛付硝子板を通して, ノズルより流水開始後2, 4, 6.5

Parameter L/v_0

- 25
- + 50
- 70

10, 20, 40, 65, 100,

200, 400, 650, 1000

2000, 4000, 6500,

10000 秒の各時

間の現象を写真

に撮り, スライ

ドルによって間接

に測定した。

その結果は1)洗

掘の安定するに

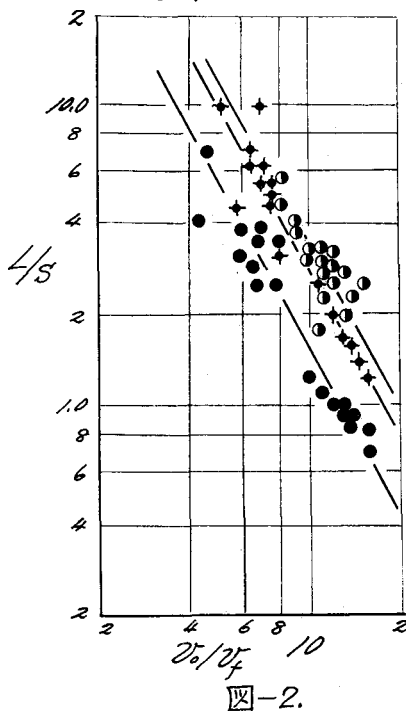
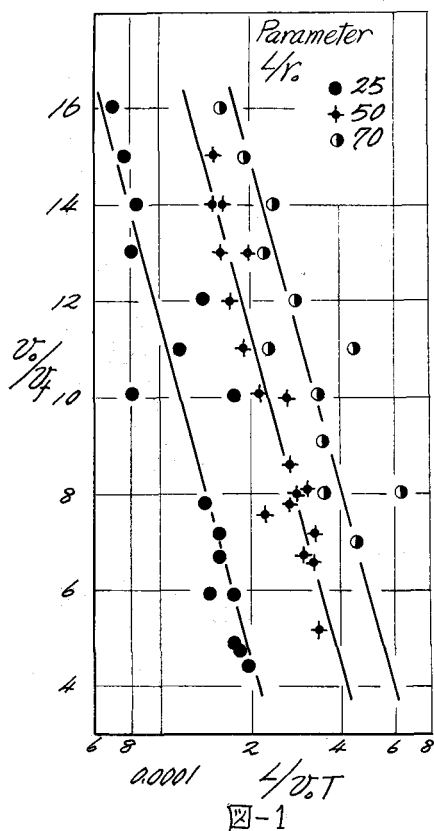
要する時間Tに

ついては図-1,

2)洗掘深につい

ては図-2がえ

られた。



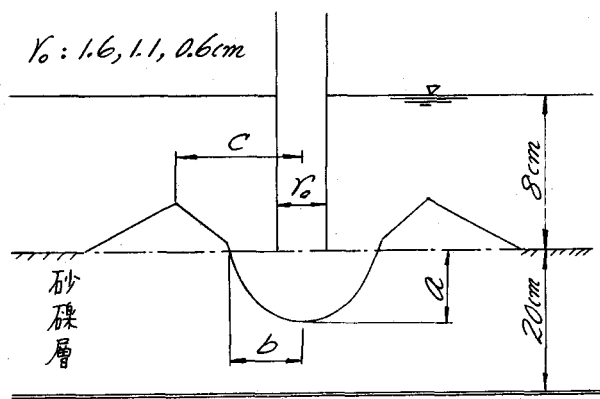


図-3

2) $L=0$ の場合。

2次元の実験で幅145cm, 高さ50cm, 奥行き2.5cmの片側碁子張水槽で, 12mm幅 $r_0: 1.6, 1.1, 0.6 \text{ cm}$ の三種類, 使用砂は前のものを使用, 図-3の洗掘量 a, b について実験の結果図-4, 5がえられた。

なお本研究は昭和31年本文部省科学研究費によつて行つたものの一部である。

